

令和7年度 中学生の「税についての作文」

沖縄国税事務所所長賞 私が考える納税者

大浜中学校 西原 智穂

私が税について初めて考えたのは、小学校六年の時だ。税に関する絵はがきコンクールに応募するため、税がどのように使われているのか調べてみた。すると消防車や体育館、公園の滑り台など身近なものの多くが税金によって作られていることがわかった。それで「税によって作られる豊かな社会」というテーマにした。私は税についてもっと知るために両親に聞いてみた。公務員である両親の給料は税金で支払われていると教えてもらい、私はこんなところにも税金が使われていることに驚いた。「税」はよく聞く言葉だが、当時の私は、その種類や使い道は全くわからなかった。

今年に入り、万博に関する気になるニュースを見た。万博の建設費が予定より約二倍になっており、しかもインフラ整備や運営費に国や大阪府、大阪市の税金が使われているというものだ。納税は国民の義務であり、政府や自治体は、国民が納得できる税の使い方をしなければならぬ。万博で予定外に使われた税金は本当に正しい使い方だったのか、私は疑問に思った。しかし、万博を訪れるたくさんの方がいることも事実だ。実際、父も万博に行きたいとずっと言っている。国語の時間に、「批判意識を持って物事を考える」と学習したのを思い出し、万博について多面的に考えてみた。

万博は、各国の科学技術や芸術文化の発展を目的として世界各地で開催されている。もし、私が住んでいる石垣島で開催されたら、昔から引き継がれている伝統文化を世界中の人に知ってもらう良い機会だ。万博をきっかけに伝統文化の担い手となる人が出てくるかもしれない。また、万博の開催により周辺地域の経済効果は大きいものとなるだろう。私が万博周辺で飲食店を営んでいるなら、迷わず万博の開催に賛成するだろう。そう考えると、超過の約二倍となった税金投入も無駄ではなく、むしろ有益である。

しかし、教育や福祉にもっとこうしてほしいと思うところはたくさんある。少子高齢社会である日本では、最優先事項ではないかという考えも正しい。万博の開催に対し、賛成・反対どちらの意見もあるように、全国民が納得できる税の使い道を見つけることはとても難しい。私自身も何が正解なのかわからない。二学期から、社会の公民の授業が始まり、もっと税について学ぶ機会が増える。私たちがきに描いたように、私たちが納める税金によって豊かな社会が築かれることは知っている。しかし、大切なのは納税者として、税について関心や疑問を持ち、自分の意見を持つことだと思う。納税するだけではなく、その使われ方について多角的な考え方ができることが、「国民の義務」なのではないだろうか。